



●核融合科学研究会ニュース 67●



特別講演会（遠隔開催）の様子



現地参加学生と教員との集合写真

## CONTENTS

NPO法人 核融合科学研究会 2021年度総会開催される	2
核融合科学研究会 2021年度 特別講演会	3
総研大・核融合科学専攻 「夏の体験入学」報告書	5
第5回 アジア太平洋 プラズマ物理国際会議開催報告	7
事務局だより	9・10

## NPO法人 核融合科学研究所 2021年度総会開催される

核融合科学研究所の2021年度総会が、2021年6月29日(火)に開催されました。昨年に続き今年もコロナ禍の中での開催となり、リモート会議システムを用い、岐阜県土岐市の核融合科学研究所にヘッドクォーターを設置し、会員企業および関係者より出席者14名および表決委任者12名をもって総会成立要件を満足しました。

総会では、まず、本研究会会長の澤岡 昭氏(大同大学名誉学長)から挨拶を頂いた後、本総会の議長の選任が行われ、満場一致で澤岡会長に決定されました。

議事では、はじめに柳 長門運営委員会委員長(核融合科学研究所教授)より、第1号議案である2020年度事業報告および決算報告について詳細な説明がありました。2020年度の主な事業としては、核融合科学研究所主催の特別講演会の開催(2020年6月30日、総会の後に開催)を行ったこと、国際交流経費助成として第29回国際土岐コンファレンス(2020年10月27日~30日)への経費援助等を行ったこと、コロナ禍のため残念ながら見学会は開催されなかったこと、機関誌の発行としては核融合科学研究所ニュース『融會』(No.65、No.66)、および2020年度事業報告書(国際交流、講演会要旨、見学会報告、広報支援、若手研究者育成、シンポジウム支援)を発行したことについて報告がありました。また、広報活動助成の一環として、2020年度「総研大夏の体験入学」事業(2020年8月24日(月)~28日(金))への援助、核融合科学研究所「オープンキャンパス2020」(2020年9月5日(土))開催に係る経費援助を行うとともに、後援名義使用を許可したことの報告がありました。さらに本研究会の最大の事業である若手研究者の育成として、総合研究大学院大学物理科学研究科核融合科学専攻の大学院生のうち、前期10名、後期12名に対して、奨学金の支給を行ったことの報告がありました。

以上が報告された後、会務の報告として、総会(2020年6月30日(木))および3回の運営委員会(第143、144、145回)が開催された(いずれもリモート会議)ことが報告されました。最後に、2020年度決算報告、財産目録の説明がなされました。これに対して監事を務める伊藤 俊之氏(株式会社北野製作所代表取締役)より会計監査結果の報告がなされ、第1号議案は承認されました。

続いて、柳運営委員会委員長より第2号議案の説明がありました。第2号議案では、2021年度の事業計画(案)および収支予算(案)について提案が行われました。核融合科学に関する技術動向の調査や産業界との情報交換、産学連携等を進めるため、講演会や見学会を企画し実施すること、核融合科学研究所が運営を務める第30回国際土岐コンファレンス(2021年11月16日~19日(リモート会議にて開催予定))および核融合関連の国際会議であるアジア太平洋物理学会連合プラズマ物理部門(2021年9月26日~10月1日)

の開催を支援すること、機関誌等の発行として2020年度事業報告書の発行および会報「融會」の発行を行うこと、また、広報活動の一環として、引き続き核融合科学研究所の「夏の体験入学」、オープンキャンパスの支援をしていくこと等について報告がありました。若手研究者の育成の推進としては、総研大核融合科学専攻の学生の奨学金および特別共同利用研究員の旅費支援をしていくこと等が説明され、2021年度収支予算案とともに本議案は承認されました。

第3号議案では、柳運営委員会委員長より、2021年度の会長、理事、監事、運営委員についての提案がなされました。その結果、会長として澤岡 昭氏が留任すること、理事として柳 長門氏、下妻 隆氏の2名が留任するとともに、竹入 康彦核融合科学研究所前所長に代わり吉田 善章氏(核融合科学研究所新所長)が着任すること、また監事として伊藤 俊之氏が留任すること、運営委員としては会員企業より4名および核融合科学研究所から10名が引き続き就任することの報告が行われ、承認されました。

以上の会務の終了後、核融合科学研究所の吉田 善章新所長(核融合科学研究所理事)の就任挨拶について柳運営委員会委員長より代読がありました。「核融合科学は極めて多くの難題を束にした総合的な研究分野であり、学術研究機関である核融合科学研究所は様々な科学と技術を束ねる役割よりもむしろ束を開いて核融合エネルギーというチャレンジを幾つものテーマに分節化し、それぞれの問題を一般化することで他の学問分野と通じ合う街道を幾筋も通してゆくという役割を担っていく」ことが述べられました。また、そのために、今後、「ユニット」という組織(研究者集団)を編成していくことの方針が説明されました。

続いて、総研大大学院生の代表として山下 東洋氏から自身の研究に関する発表「高熱流プラズマ対向機器の高度化に関する研究」が行われました。発表の最後には、核融合科学研究所からの奨学金支援に対する感謝の言葉が述べられました。

総会の後、特別講演会が開催されました。講師には、四條畷学園短期大学の赤田 太郎専任講師をお迎えし、「アンガーマネジメント」の題目で講演を頂きました。コロナ禍が続く、とすれば感情的になったりすることもある中、怒りを知って怒りを有効活用し、心と行動をコントロールする方法について紹介があり、リモート会議システムのブレイクルーム機能を用いた参加者同士の交流などもあり、大変有意義な講演となりました。ご講演内容の詳しいことについては、別掲記事をご参照ください。

(文責：柳 長門 核融合科学研究所理事長  
核融合科学研究所教授)

# 核融合科学研究会 2021年度 特別講演会

2021年6月29日(火)

## 「怒りへの誘惑を断つアンガーマネジメント」

講師 赤田太郎（あかだ たろう）先生

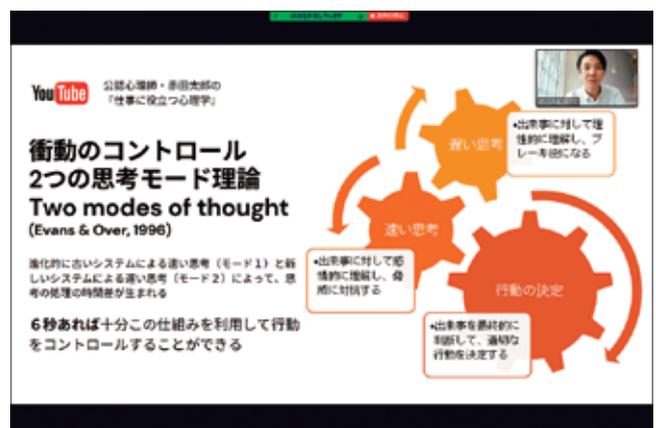
### 講師のご紹介

四條畷学園短期大学専任講師。博士(教育学)。公認心理師。臨床心理士。2010年龍谷大学短期大学部社会福祉学科専任講師、2013年龍谷大学短期大学部こども教育学科准教授、2019年4月小田原短期大学保育学科通信課程准教授を歴任し、2019年9月に現職。長く保育者養成にかかわり、子どもの虐待トラウマ、保育者のストレスの研究を行い、現在は、産業・組織心理学が専門。職業性ストレスやハラスメント、トラウマ、発達障がいなどのケアを通して、働く人のメンタルヘルスの改善に取り組まれている。アンガーマネジメントでは、ハラスメントの予防やトラウマセラピーを通して、組織・個人の怒りの問題の解消に取り組まれている。YouTubeチャンネル『公認心理師・赤田太郎の仕事に役立つ心理学』登録者1552人(2021年6月12日現在)では、アンガーマネジメントの動画をはじめ、ストレスマネジメント検定の対策動画やマインドfulnessの動画を多数、投稿されている。

### ご講演概要

長引くコロナ禍の影響により不安やストレスが募り、怒りの感情で悩んでいる人が増えていることもあり、本講演では心と行動をコントロールする方法について、具体例を挙げつつ、詳しくご紹介頂きました。今回は、コロナ禍の状況を鑑みてリモート会議システムを用いた講演でしたが、会議システムの機能により参加者同士が小グループを形成し、交流する機会（ワーク）が設けられ、自分だけでなく同僚の意見を聞くことでも怒りについて改めて考える機会が得られました。約100名を超える多数の参加者にご参加いただき、講演後の質疑応答の時間では活発な議論が行われるなど、大変有意義な講演となりました。以下は、講演に先立ち、赤田先生から頂いた案内です。「私たちの

生活は、怒りの誘惑にあふれています。その怒りが原因となる社会的問題や個人の傷つきを挙げると、キリがありません。そうした問題に向き合い、解消していこうとする取り組みが、アンガーマネジメントです。この講演では、怒りによる社会・個人的問題を取り上げ、私たちにとって身近な問題であることをお伝えします。そして、生理学と心理学から、怒りがどのように起きているのかのメカニズムを明らかにし、ワークを通して、怒りの誘惑を回避する方法やその怒りの恩恵を享受する方法についてお話したいと思います。」



質疑応答

- Q** リモート開催の学会では白熱した議論がなくてつまらない。怒り心頭の議論も生き残ってほしい。
- A** 思い違いを取り除くという意味で冷静になる部分は重要です。  
闘争する世界も嫌いではないが、人間関係を破壊するところまでいくともったいない。
- Q** 議論していて突然怒りが来た時に対処ができなくて我慢することが多い。  
適切に対処するためのアドバイスが欲しい。
- A** そういうときは「一度検討するので後で議論させてほしい」と提案するのが良い。それにより、時間を置いて議論ができる。
- Q** 相手が怒るのを防止する、あるいは、対処する方法はありますか。

- A** 相手の怒りは、相手の感情なのでどうしようもできない。  
相手を分析して、共感性が低い人であれば取り付く島もないと考えるしかない。
- Q** メールのやり取りの中で怒りを制御する方法はありますか。
- A** メールでの怒りはコミュニケーションではなく、カタルシスに近い。  
社会的な交流がある場合は、闘争しないようにブレーキが踏まれた状態にあるが、メールは相互作用が遅いため怒りを表現する場になってしまうことがある。さらに、身体的なサインが少ないため、制御は難しい。
- C** 怒りのメールは直後に送信しないで、翌日読み返して直してから送るといった意見があった。

**得るもの**

- 自分の思いを伝えられる
- 欲しいものを手に入れる
- 思い通りに操作できる
- 危険を察知できる
- 身の安全を守る
- 怒りの回避は社会的に賞賛される
- 怒り回避はエネルギーを節約する

**失うもの**

- 人間関係が失われる
- 「あなたが悪い」と他者に批判を向けがちになる。
- 失職、職場からの信頼も失う。
- 怒りが暴力（攻撃性）を引き起こしやすい。
- 身体的損傷、財産の破壊
- 告訴、投獄
- 罪や恥・後悔の感覚 など

**どうすれば**

- 怒りは誰にでも生じる普通の感情であり、それ自体「いい」「わるい」はない
- 怒りは問題を知らせてくれる「メッセージ」
- 怒りのパワーは活力を与えてくれる
- 怒りをうまく処理する方法が「アンガーマネジメント」
- 怒りそのものがトラブルを引き起こすのではない
- 自分の怒りをうまく表現できなかったり、自分の怒りにうまく気づけないときに問題が起こる

**どうすれば**

- 怒りは誰にでも生じる普通の感情であり、それ自体「いい」「わるい」はない
- 怒りは問題を知らせてくれる「メッセージ」
- 怒りのパワーは活力を与えてくれる
- 怒りをうまく処理する方法が「アンガーマネジメント」
- 怒りそのものがトラブルを引き起こすのではない
- 自分の怒りをうまく表現できなかったり、自分の怒りにうまく気づけないときに問題が起こる

**Team Check-in 3**  
困難な状況をさらに悪化させる

あなたは、怒りの最高潮の時に、どのような状態になりますか？また、その時に冷静な知性的な判断ができて、それが最も有効な結果をもたらすと思いますか。

YES or NO

**怒りは2次感情**

怒りの前には、不安、恐れ、悲しさなどの「1次感情」が必ず湧いている。無意味なワカを避けるためには、1次感情の観察が必要になります。

何に怒っているかを自覚・理解する  
自己観察が重要

↑  
怒り

ストレス、不安、痛み、悲しみ、妬み、寂しさ、苦悶、絶望、忌恨、弱さ、無力感、無理解など

**健全な怒り**

- 怒りは人生の中でごく普通なもの
- 怒りは実際の生活の中で問題を知らせてくれる正確な信号
- 怒った時の行動は慎重に選んで自動的に怒らない
- 制御不能にならないようにほどほどに表す
- 目標は怒りを出すのではなく、問題を解決すること
- 相手が分かるように明確な方法で伝える
- 怒りは一時的なものでいづれ消える
- 怒りはアイ・メッセージで伝える

あなたが悪い! ではなく...

あなたが(行動)をするとき私は(気持ち)を感じそして私は(目標)を望んでいます

怒りの伝え方「アイ・メッセージ」

**身体反応に**

(Emma Williams & Rebecca Barlow, 1998)

- 1 深慮的筋弛緩法
- 2 気づきによるリラクゼーション
- 3 抗緊張リラクゼーション
- 4 誘導イメージ法
- 5 呼吸法 (深呼吸・鼻呼吸の解放)
- 6 その他 (マッサージ、アロマ、音楽、瞑想、ヨガ、体操、音楽、カタルシス、運動)

**ポリヴェーガル理論**  
(Stephen W. Porges, 1990)

ストレス状態における植物性神経系反応に加え、シャットダウン(凍縮)と闘争/逃走反応があることを明らかにした理論。迷走神経(迷走神経)には2種類の分岐があり、迷走神経の「腹迷走神経(迷走神経)」と「背迷走神経(迷走神経)」に分かれる。

- A 交感神経
- B 副交感神経 無条件反射神経
- C 副交感神経 有條件反射神経

**心理的安全性**  
(Amy C. Edmondson, 1999)

- 1 失敗から学ぶ
- 2 課題の壁が向上し、業績が向上しやすくなる
- 3 顧客の顔を拝見し、顧客の顔を見ることが出来る
- 4 自信が無いときに知識を共有できる
- 5 従業員エンゲージメントを高めて、課題を解決することが出来る
- 6 意見の対立を建設的に受け取り、ダイバーシティからの価値を引き出す

# 総研大・核融合科学専攻「夏の体験入学」報告書

高温プラズマ物理研究系 後藤 基志

2021年8月23日から27日までの5日間の日程で、核融合科学研究所（以下、NIFS）において、「夏の体験入学」を開催しました。

NIFSに併設されている国立大学法人 総合研究大学院大学（以下、総研大）物理科学研究科 核融合科学専攻（以下、本専攻）では、2004年から毎年「夏の体験入学」を開催しています。本専攻では、「夏の体験入学」を総研大核融合科学専攻の志望者獲得を第一義的な目的とし、更に、将来の核融合エネルギーの実現に向けた人材育成、社会への情報発信・広報等に向けた重要な位置付けとして、大学の1年生から4年生、および高等専門学校の4、5年生と専攻科生を対象に行ってきました。

18回目となる今年は、10課題で参加学生を募集したところ33名からの応募があり、開催に向けた準備を順調に進めていましたが、第5波の新型コロナウイルス（COVID-19）感染拡大が全国規模で発生したため、当初予定を大幅に変更することになりました。最終的に、夏季短期インターシップのため前週から既にNIFSに滞在していた学生2名を除く全ての学生の現地受け入れを断念しました。担当教員の努力により3課題についてはオンライン課題へと変更することができたため、現地の2課題と合わせた5課題を実施し、現地2名、オンライン11名での開催となりました（写真1）。実施が見送られた5課題に配属されていた20名の学生には、今年度の参加を諦めてもらわざるを得ず、大変心苦しい結果となりました。ぜひ来年度に参加してもらいたいと思います。



〈写真1〉 現地参加学生と教員との集合写真

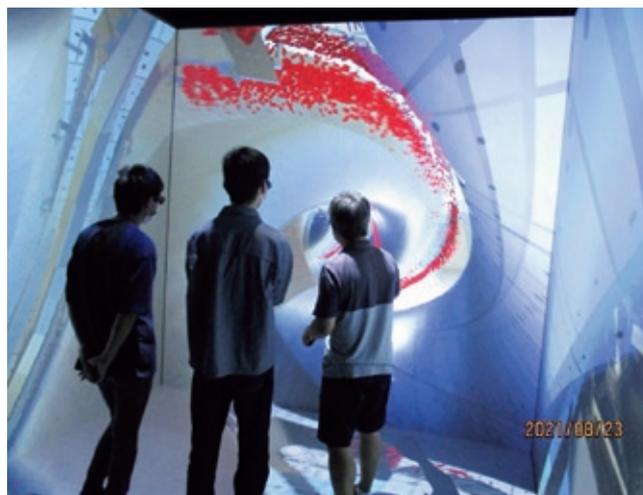
核融合科学を構成する研究分野は、プラズマ物理学、原子物理学、電気工学、低温・超伝導工学、材料工学、真空工学、シミュレーション科学など多岐にわたり、本専攻にはその各分野を専門とする教員が揃っています。今回の体

験入学では、プラズマ実験・加熱・計測系、核融合工学系・自然科学系からそれぞれ1課題、解析・理論・シミュレーション系から3課題の計5課題が実施されました（表1）。解析・理論・シミュレーション系の3課題は今回初めて、オンラインで実施しました。

プラズマ実験・加熱・計測系
分光システムの較正と太陽スペクトルの解析
核融合工学・自然科学系
真空システムを用いた水素同位体の金属内移行現象の観察
解析・理論・シミュレーション系
LHD プラズマで生じる揺らぎの時系列データ解析
複雑性を有するプラズマ現象の粒子シミュレーション研究
機械学習を用いたイメージングボロメータ用薄膜検出器の特性評価

〈表1〉 夏の体験入学実施課題

体験入学の1日目は、吉田善章専攻長からの挨拶に始まり、各研究課題のテーマ概要説明が担当教員からなされるとともに、各参加学生は自己紹介を行いました。その後、現地参加者は大型ヘリカル装置（LHD）の実験設備、並びにシミュレーション施設見学を行いました（写真2）。参加した学生は、世界有数の研究設備を目の当たりにして核融合科学への興味を深めている様子でした。



〈写真2〉 施設見学の様子

実習が行われる2日目から4日目までは、毎日朝礼で前日の実習内容や感想の報告を各課題について行い、朝礼後、配属された課題実習に取り掛かりました。参加学生は皆、担当教員が実際に取り扱っている実験機器や計算機を用いて、専門的な研究課題に熱心に取り組んでいました（写

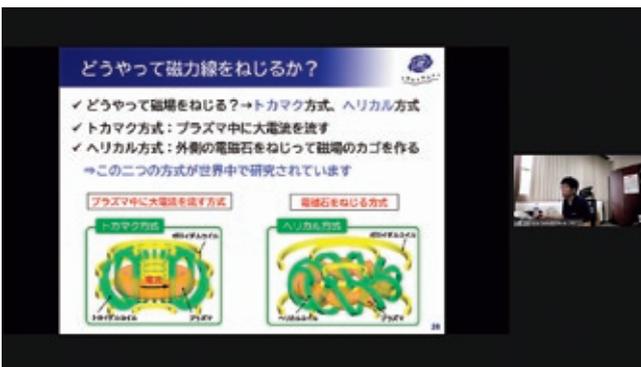


〈写真3〉 実習の様子



〈写真5〉 成果発表会の様子

真3)。2日目の午前中に、榊原悟副専攻長による特別講義（写真4）があり、参加学生は、研究開発が進められている核融合発電の原理、LHDに代表される磁場閉じ込め核融合プラズマ研究の概要や研究課題、核融合研究の歴史などについて学びました。2日目の課題実習終了後、研究者へのキャリアパスに関心のある学生を対象に、キャリアビルディングをテーマとした座談会をオンラインで開催しました。本企画は任意参加でしたが、ほぼ全ての学生が出席し大盛況でした。NIFSの若手研究者2名をパネリストに迎え、どういった道筋を経て核融合科学の研究者になったのか、研究者になるために大事なことは何かなど、いくつかのテーマでパネリストの経験に基づく発表と、それに対する学生との質疑応答が行われました。学生にとっては、研究内容に関することから私生活に至るまで、研究者から直接話を聞く機会が得られ、将来を考える上で大変参考になったようです。



〈写真4〉 榊原副専攻長による特別講義の様子

5)。質疑応答にも堂々と答え、研究発表のレベルの高さに感心させられました。発表会の後、榊原悟副専攻長からの専攻紹介および入学案内があり、次いで開催された閉校式における吉田善章専攻長からの挨拶をもって、全日程を終了しました。

最終日に参加学生が提出した夏の体験入学についてのアンケートからは、本事業への満足度が大変高いことがうかがえ、COVID-19の感染拡大情勢の中、夏の体験入学が開催されたことに感謝する学生もいました。また、ここ数年、過去に夏の体験入学に参加した学生が本専攻を受験しており、総研大の広報事業としての成果が目に見えるようになってきています。夏の体験入学に参加した学生の中から、数年後、将来の核融合科学研究を担う研究者が現れてくれることを期待しています。なお、これまでの夏の体験入学の課題概要や参加学生の体験談などを総研大核融合科学専攻のホームページ (<https://soken.nifs.ac.jp/open/>) で公開しています。

最後に、夏の体験入学は、総研大の「新入生確保のための広報的事業」および特定非営利活動法人核融合科学研究会からのご支援により実施することができました。ここに厚く御礼申し上げます。

5日目最終日の発表会では、参加学生、課題担当教員、および夏の体験入学関係者が参加して、発表時間10分・質疑応答5分の口頭発表を行いました。苦勞して仕上げた発表資料をもとに、発表会参加者らに対して実習の詳しい内容の説明を行いました。学生たちは、結果だけでなく体験を通して学んだことを活き活きと発表していました（写真

## 第5回アジア太平洋プラズマ物理国際会議開催報告

社) アジア太平洋物理学会連合プラズマ物理分科会 代表理事 菊池 満

当学会は、アジア太平洋地域の各国物理学会や応用物理学会が会員学会となっているアジア太平洋物理学会連合(AAPPS)傘下の第1号分科会として2014年に発足し、2018年末からは一般社団法人として活動しております。さて、本年9月26日から10月1日にかけて、当学会の第5回年会として、第5回アジア太平洋プラズマ物理国際会議(AAPPS-DPP2021)をオンライン開催いたしました。

本国際会議は、米国物理学会プラズマ物理分科会(APSDPP)や欧州物理学会プラズマ物理分科会(EPS-DPP)の年会と同等のアジア太平洋域での学会活動です。本年は、九州大学(白谷正治教授)がZoom運営チームを提供してホスト役を務め、講演者総数650名、参加者総数1109名を数えました。開会式では、国際組織委員長のワン教授(前、中国科学院プラズマ物理研究所長)、九州大学学長石橋達朗教授、当学会代表理事菊池満からご挨拶をおこなった後、大阪大学三間國典名誉教授より学生賞(U30)、ソウル国立大学のタクサーハム教授より若手賞(U40)の発表が行われました。それに引き続き、韓国科学技術院(KAIST)のヨンホーチョエ教授よりプラズマイノベーション賞、東京大学の山田弘司教授よりチャンドラセカール賞の発表が行われました。

開会式の後には、基調講演40件、分野基調講演51件、招待講演385件、口頭発表114件、ポスター発表59件が行われました。基調講演を除く講演は9分野に分かれたパラレルセッションで実施し各分野における専門的な議論を行いました。

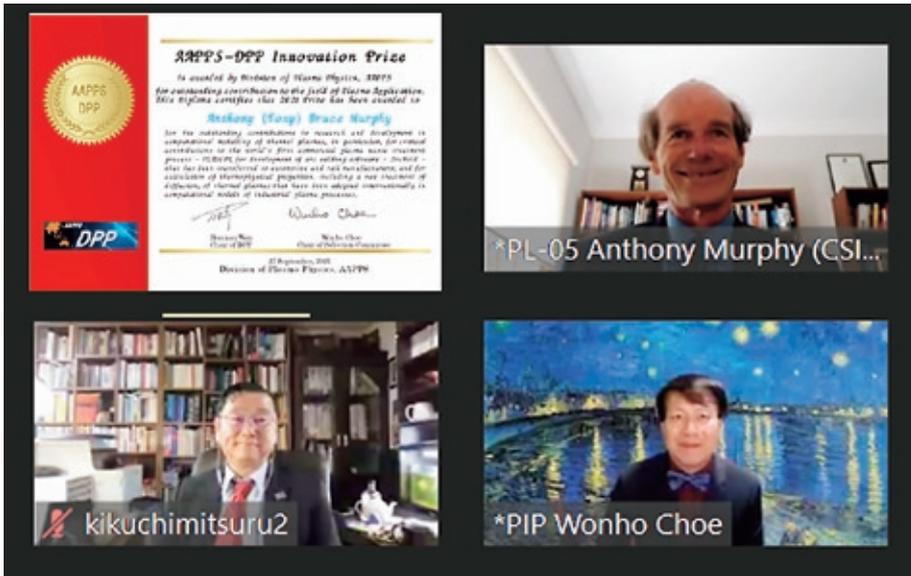
本年会には世界各国からオンラインで参加し、アジア太平洋域からは、日本263名、中国206名、インド151名、韓国86名、オーストラリア22名、パキスタン19名、台湾10名、マレーシア5名、ネパール5名、ニュージーランド4名、フィリピン2名、サウジアラビア2名、シンガポール1名が参加しました。欧米からは米国130名、ドイツ40名、フランス38名、英国26名、イタリア24名、ベルギー23名、ロシア13名、ルーマニア6名、スペイン3名、チェコ3名、カナダ3名、スイス2名、オーストリア2名、オランダ2名、スロバキア2名、リトアニア1名、スウェーデン1名、ポルトガル1名、スロベニア1名、ハンガリー1名が参加をいたしました。その他の国々としては、アルゼンチン3名、メキシコ2名、チリ1名、ペルー1名、コロンビア1名、ブラジル1名など中南米諸国からも参加者を得ています。

本年会では、核融合プラズマ閉じ込めの物理研究を含む様々な分野のプラズマ物理研究者に研究成果の発表機会を与えるとともに、若手賞(U40賞)や学生賞(U30賞)を含む様々な学会賞の選考を行い、優れた若手研究者の育成と顕彰に務めております。本学会の若手賞は、これまで核融合科学研究所の伊藤篤史先生を含む、我が国、中国、韓国、インドの気鋭の若手研究者が受賞されています。本年は、我が国からは東京大学の田辺博士先生が受賞されました。貴研究会のご支援に熱く御礼申し上げます。

(<http://aappspp.org/AAPPSDPPF/youngawardtable.html>)



チャンドラセカール賞



プラズマイノベーション賞



若手賞 (U40)



学生賞 (U30)

## 事務局だより

### 代表者および連絡者変更

(敬称略)

		変更前	変更後
イビデン株式会社	代表者 連絡者	高木 俊 (技術開発本部事業戦略部 専任部長)	大橋 純 (セラミック事業本部FGM事業部営業技術部技術グループ グループマネージャー)
太陽日酸株式会社	代表者 連絡者	稲森 武則 (オンサイト・プラント事業本部プラント事業部 事業部長)	猪俣 甚悦 (オンサイト・プラントユニットプラント事業本部 宇宙低温機器営業部 部長)
中部電力株式会社	代表者	高村 幸宏 (技術開発本部技術企画室企画グループ グループ長)	清水 雅仁 (技術開発本部技術企画室企画グループ グループ長)
株式会社東光高岳	代表者	安部 貴美 (中部支社 支社長)	宮戸 宏明 (中部支社 支社長)
東洋炭素株式会社	代表者	疋田 健 (名古屋営業所 所長)	矢澤 弘成 (所長)
株式会社トーエネック	代表者	伊藤 公一 (技術研究開発部 部長)	小林 浩 (技術研究開発部 部長)
	連絡者	伊藤 公一 (技術研究開発部 部長)	高津 未央 (技術研究開発部技術企画グループ グループ長)
関西電力株式会社	代表者 連絡者	小路 泰弘 (研究開発室研究推進グループ マネージャー)	樋口 誠一 (研究開発室技術戦略グループ マネージャー)

### 所属部署変更

(敬称略)

	変更前	変更後
富士電機株式会社	中部支社営業第二部	中部支社営業第三部
株式会社前川製作所	ソリューション事業本部 アドバンスドシステム部営業グループ	ソリューション事業本部 オイル・ガス&ケミカル部門営業グループ

### 社名・代表者・連絡者変更

(敬称略)

	変更前	変更後	
富士通Japan株式会社	社名	富士通株式会社	富士通Japan株式会社
	代表者	舩田 元彦 (東海支社 支社長)	森本 泰史 (東海支社 支社長)
	連絡者	松原 美江 (東海支社総務部)	岩崎 敏代 (フロントサポート部 (東海))

(2021年12月現在)

## 見学会のお知らせ

令和3年度融會見学会については、令和4年1月から3月に実施する予定で検討してまいりましたが、COVID-19の感染拡大が未だ収束を見いだせない状況にあり、会員皆様の健康と感染拡大による諸々の影響を鑑み中止とさせていただきます。

令和4年度の見学会につきましては、COVID-19との共生に関する社会的受容性が高まった暁には再開できると考えており、見学訪問先について引き続き検討してまいります。

ここに、令和3年度融會見学会の中止のお知らせをいたします。

何卒ご理解の程よろしくお願い申し上げます。

---

## 現在の会員

---

- 愛知電機 株式会社
- イビデン 株式会社
- 関西電力 株式会社
- 株式会社 北野製作所
- 株式会社 クリハラント
- 四国電力 株式会社
- 十合刈谷酸素 株式会社
- 株式会社 泰洋電機
- 大陽日酸 株式会社
- 中部電力 株式会社
- 株式会社 東京インスツルメンツ
- 株式会社 東光高岳
- 東芝エネルギーシステム 株式会社
- 東洋炭素 株式会社
- 株式会社 トーエネック
- ニチコン 株式会社
- 日本ガイシ 株式会社
- 日本空調サービス 株式会社
- 株式会社 日立製作所
- 富士通Japan 株式会社
- 富士電機 株式会社
- 株式会社 前川製作所
- 丸理印刷 株式会社
- 三菱重工業 株式会社
- 三菱電機 株式会社

25社（2021年12月現在、50音順）